

出前講座 報告書

開催日時	平成31年2月5日(火) 10時00分～11時30分		
開催場所	上野ふれあいプラザ 3階		
申請団体等名称	伊賀市母子寡婦福祉会		
テーマ	ひとり親家庭・寡婦家庭の現状と懇談		
委員会名等	教育民生常任委員会		
出席議員	近森正利(委員長)・信田利樹(副委員長)・桃井弘子・福村教親		
	生中正嗣・空森栄幸・百上真奈・岩田佐俊	記録者	信田 利樹

【講座・意見交換等の主な内容、対応等】

子育て支援について

【母子寡婦福祉会より】

子どもが風邪をひいた時など、見てもらう人が居ないので仕事を休む事になり、勤め先からの信用が無くなってくる。

【委員会より】

伊賀市には、子育て援助活動をする『ファミリー・サポート・センター事業』がある。

【母子寡婦福祉会より】

民生委員やサポートして頂ける人の横のつながりがない。行政において、サポート等のPRを行い、もっと相談しやすい体制にしてほしい。また、行政からも企業側に子育ての問題について、理解を求めてほしい。

支援施策について

【母子寡婦福祉会より】

中学生になり、部活動での交通費や合宿費の負担が大きいため、部活動に関する補助はないのか。

【委員会より】

市の方でも色々と補助があるが、限られた試合のみであり、練習試合等については学校とも話合っしてほしい。

仕事について

【母子寡婦福祉会より】

学童の延長保育について、地域のばらつきがあり、学童等に合わせて仕事を探しているため、希望する仕事に従事出来ない。

市役所のあり方について

【母子寡婦福祉会より】

母子寡婦福祉会と市役所との連携が取れてなく、もう少し幅広く対応して貰える様にして欲しい。

【委員会より】

連携出来る様に提案していきたい。

夏休みについて

【母子寡婦福祉会より】

夏休みについて、2学期の始まりが5日早くなったが、学校が午前中のみなので働く身としては困っている。子どもたちも昼の暑い時間帯に歩いて帰ってくるので、5日にするなら、終日を2日と午前中1日にして欲しい。

【委員会より】

この件について、教育委員会は多くの方の意見を聞いて検討していきたいとのことである。

市営住宅の物件について

【母子寡婦福祉会より】

古い物件でも家賃が高い。あまりにも古い物件は住みづらい。ひとり親家庭の所得では、文化住宅の家賃も高く給料の大半が家賃になり生活費が残らない。援助をお願いしたい。

民間より家賃は安いですが、もう少しリフォームして貸してほしい。

新しい所はすぐに入居され、古い住宅は住みにくい。

企業が住宅手当・家族手当を支給してくれればもっと楽になる。

確定申告控除について

【母子寡婦福祉会より】

死別寡婦に適用されている特別寡婦控除を、生別寡婦にも適用してほしい。

【委員】

特別寡婦控除等については国税の見直しが必要なので、全国の母子寡婦団体で国等に要望してはどうか。

まとめ

【委員会より】

議会として、母子寡婦の現状について理解をさせてもらった。このような状況を行政に対しても、伝えていく必要があると思われる。行政に対して、要望書を提出するというやり方や、このような状況を市長、行政と対談するのも良いと考える。

伊賀市議会議長 様

平成 31 年 3 月 13 日

議会出前講座実施要綱第 11 条第 1 項の規定により提出します。

教育民生常任委員会委員長 近森 正利